

## 三田市における

# 中学校武道必修化に向けた取組

三田市教育委員会

兵庫県三田市は、学習指導要領改訂による4月からの中学校武道必修化に向けて、市内にある公立8中学校すべてに武道場を建築いたしました。

武道を通して、他者への思いやりの心など人格形成を図っていきたくと考えています。



## 1 三田市の概要

「太郎を眠らせ、太郎の屋根に雪ふりつむ。」

次郎を眠らせ、次郎の屋根に雪ふりつむ。」

(三好達治『測量船』より)

この「雪」という詩は、三田市

ゆかりの詩人・三好達治によって作られました。三田の町並みに降り積もる雪の様子を表したものと

言われています。また、三田市は我が国で最初にビールやマッチ、

写真機を作った蘭学者・川本幸民

や元首相・吉田茂の懐刀ふところかたなである白洲次郎の祖父・白洲退蔵の出身地でもあります。

兵庫県の東南部に位置し、穏やかな気候に恵まれたこの地に

人々が暮らし始めた歴史は古く、遠く3万年前にさかのぼります。

その後、7世紀末には屋敷町周辺に金心寺の門前町が形成されまし

た。室町時代には三田城が、安土

桃山時代には城下町が築かれ、江戸時代には九鬼三万六千石の城下町として栄えました。1980年代からニュータウンの開発により、一時期は人口増加率日本一になるほど、急増しました。現在豊かな自然に恵まれた田園都市に11

万5千人の市民が暮らししています。

## 2 三田のめざす教育

三田市のめざす子ども像は「自分が好き・人が好き・この町が好き、夢に向かって歩む子」です。学校・家庭・地域・行政が協力し合って、自分や他人を大切に、誇りをもって生きる子、課題と向き合い、学ぶことを楽しむ子、人とのつながりの中で、自分のよさを発揮できる子、自分自身の生き方を考え、夢に挑戦する子を育てたいと考えています。

学校現場においては、変化する社会の中で、基礎・基本的な知識・

## 3 武道場の完成

本市では、武道必修化を受け、整った環境のもとで充実した武道の授業が行えるよう、市内公立8中学校全てに武道場を建築いたし

技能を習得し、それらを活用して

課題を見つけ、その解決のために自ら考え、判断し、行動するなど、よりよく問題を解決する「確かな学力」、未来に向けて主体的に人生や社会を切り拓いていくために必要な他人を思いやる心や感動する心などの「豊かな心」、生涯にわたって健康でたくましく生きていくために必要な「健やかな体」、これら三つの資質能力をバランスよく育成することをめざし、日々の教育に取り組んでいます。

ました。

武道場の大きさは、約200㎡で、98枚の畳と扇風機4台、40人分のロッカー付きの更衣室を備えてい

ます。体育授業のほか、心身を高める場として、部活動・社会体育等、幅広く有意義な活用を進めています。

全ての武道場には、日本武道協議会の「こども武道憲章」を「武道の心構え」として掲げています。武道を通して、技を習得し、心を磨き、気力を高め、体力を養い、礼を重んじることの大切さやフェアプレーの精神を学び、相手を尊重する態度を身に付けて欲しいという強い願いを込めたものです。

平成22年8月5日には、三田市ゆりのき台中学校において、武道場完成を記念して三田中学校武道場竣工式典を行いました。

式典では、テープカットのあと、市長・来賓



武道場完成記念式典でテープカットする竹内英昭市長はじめ関係者

### 武道の心構え

- 一、武道は、技をみごとくことによって心身をきたえ強くたくましく、勇氣と思いやりと正義感をもった社会に役立つ人になることをめざします
  - 二、稽古をするときは、先生の教えや礼儀を守り基本を大切に、技だけでなく、心と体も共にきたえるよう、一生懸命にはげみます
  - 三、試合や演武では、ふだんの稽古の力を出しきつてがんばり、勝ち負けや結果だけにこだわらず、節度ある真剣な態度でのぞみます
  - 四、道場では、技をみがき、心と体をきたえる場所として、規則や礼儀を守り、清潔と安全を心がけます
  - 五、道場の仲間を大切にしてお互いに協力し、はげましあいながら、楽しく稽古し、さらに多くの仲間をつくりまします
- こども武道憲章より



「本気」「団結」「感謝」の文字を掲げ、  
武道場完成の喜びを述べる生徒

挨拶、ゆりのき台中学校生徒代表  
による挨拶がありました。生徒は、  
「本気」「団結」「感謝」の文字を  
パネルで掲げ、武道場完成の喜び  
を表現するとともに、「多くの方々  
の思いや願いが込められた武道場  
で稽古に励み、心身を磨きたい」  
と意気込みを語ってくれました。  
続いて、甲南大学スポーツ・健  
康科学教育研究センター教授、柔  
道部総監督の山崎俊輔先生から  
「武道と礼節について」と題して  
講演をいただきました。講演では、  
「自分の力で物事を解決しようと  
いう意思や想像力に欠けた人が増

## 4 「武道」を学ぶ

### ① 指導者の育成

武道を安全かつ円滑に実施する  
ためには、環境整備と共に、教員  
の更なる指導力向上が喫緊の課題  
です。本市では、武道必修化に向  
けた取組の一つとして、平成21年  
度より武道研修会を実施し、教員  
の指導力向上を図ってきました。  
山崎俊輔先生を講師として、柔  
道の授業づくりについてご指導い

えている。自己支配能力に欠け、  
自己の痛さへの経験不足から、他  
人の痛さに気付かず重大な過失を  
犯す傾向がある。そこで、知徳体  
の備わった人間づくりが必要であ  
る。精力善用の心の教育、徳育、  
モラル教育、情動の教育が必要で  
ある。武道は古来より、礼に始ま  
り、礼に終わる。孔子は論語にお  
いて『禮の用は、和を貴しとなす。  
先王の道、これを美とす』（相手

の心を察し、それに己を合わせて、  
全体の和を図っていくのが、礼の  
用である」と述べている。相手を  
敬い、感謝することで信頼し合い、  
助け合う心を育み、自分だけでな  
く他人と共に栄え合う世の中にし  
ようとすると他共栄の精神につい  
て学んで欲しい」と語られました。  
さらに講演後に、演武の披露と実  
技講習もしていただきました。

ただきました。

袈裟固め、横四方固め、上四方  
固めなど、寝技を中心に実技練習  
をしました。実技練習では二人一  
組になり、相互に技をかける側と  
かけられる側に分かれての練習で  
す。山崎先生は「柔道は受け身の  
練習から始まる。柔道においては、  
勝つことだけでなく、負けること  
を学ぶことも大切です」と話され

ました。

② 技を磨き、礼を重んじる授業  
「お願いします」。生徒は、大き  
な声で挨拶した後、深々と一礼を  
して次々と武道場に入ってきました。  
そして、張りつめた空気の中  
で授業が始まります。

まず、武道場に掲げられてい  
る「武道の心構え」について話が  
ありました。次に、教師が受け身  
の見本を見せ、基本動作である受  
け身の練習やゲーム形式を取り入  
れた「寝技」の練習が行われまし  
た。二人一組で行われる寝技練習  
では、お互いを称え、感謝の意味



武道研修会で指導する山崎俊輔講師



柔道授業の様子

を込めた「ありがとうございませう」という大きな声が武道場に響き渡りました。

授業後、生徒に感想を聞いてみると、「緊張感がある授業でした」「武道の授業は面白い」「次の授業も楽しみです」という答えが、清々しい笑顔とともに返ってきました。

指導していた教師からも「これまででは体育館に畳を敷き、狭いスペースで授業をしていました。全員が一斉に実技練習することができずに効率が悪かったのですが、武道場が完成して、広いうえに専

用の畳の上で安全に授業ができるようになり嬉しく思います。畳が非常によくなり、生徒だけでなく私自身も喜んでいきます。武道の授業では、『礼儀』の作法を中心と

## 5 「武道」の授業の今後

武道の授業をより充実したものにしていくなかには、指導者である教師が、武道の持つ理念や技についてさらに専門的に学んでいく必要があります。安全に主眼を置いた技能、指導法等の研修に外部指導者として、引き続き武道家のお力も得られるようにしていきたいと思えます。

兵庫県出身で柔道家・教育家である嘉納治五郎氏は、修行で得ようとするものを、単に戦う技法の「術」ではなく、人格形成を最終目標とする「道」としました。武道の授業を通して、「武道の心構え」にも掲げた人としてのあり方・

した授業を行っています。柔道で学んだ『礼儀』を、生徒たちが日常生活の中にも生かしてくれらることを大いに期待しています」という感想が返ってきました。

三田市では、体育授業で、「スポーツチャンバラ」を実践している小学校もあります。相手との間合いを読み、相手の懐に飛び込む勇気が必要とする対人スポーツは、現代の子どもたちに必要な自分と相手との「間」を感じ取る力を身に付けさせてくれます。このような経験が中学校での武道につながり、子どもたちの心を育てる

生き方を生徒たちにどのように伝えていくか、武道の真髄に触れるためにどのように指導していけばよいかなど、教師が知恵を出し合う授業研究の更なる充実が必要だと考えます。

一助になると考えています。自分が大切にされている、愛されていると思える時、子どもたちは安心して日々を過ごすことができます。もっと知りたいという学ぶ意欲、自分の可能性に向かって挑戦しようとする気持ちが高まっています。そして、自尊心の高揚は、思いやりの心や健やかな体の育成につながっていきます。三田市がめざす子ども像の実現に向け、武道の授業を含めた学校教育の充実に取り組んでいきたいと思えます。



正座をして教本を読む